

第6回 東大和市公園等再整備方針・再整備計画策定検討会

会 議 要 録

- 1 日 時 令和8年7月23日（木）10時00分～12時00分
- 2 場 所 東大和市役所会議棟第7・8会議室
- 3 出席委員 佐藤 伸朗（座長）、町田 誠（副座長）、三浦 貞夫、亀山 明子
山本 尚幸、木内 健司、秋山 治雄、寺島 由紀夫
- 4 事務局 鈴木公園緑地担当課長、鈴木計画係長、末吉主事
- 5 次 第
 - 1 座長挨拶
 - 2 議事
 - （1）本日の検討会でご意見いただきたい事項
 - （2）第5回検討会の振返り及びその後の対応状況について
 - （3）「東大和市パーク・グラデーションプラン
～多彩な公園の実現に向けた再整備・管理運営～」について
 - （4）モデル公園整備に伴うワークショップの実施について
 - （5）今後のスケジュールについて

6 議事要旨

(1) 本日の検討会でご意見いただきたい事項（事務局から資料説明）

(2) 第5回検討会の振返り及びその後の対応状況について

(質疑応答)

○委員

オープンハウスの来場者は、どのような年代が多かったか、傾向があれば伺いたい。

○事務局

5月10日（日）に南東部エリアの東大和市リビングテラスで実施した第1回オープンハウスでは、会場近くの商業施設を訪れた親子連れの参加が多く、小学生だけの参加も見受けられた。

5月31日（日）に南西部エリアのLICOPA 東大和で実施した第2回オープンハウスでは、会場が商業施設内であることや、会場周辺にマンションが立地していることから、主に20代から40代の参加が多かった。

6月6日（土）に北部エリアのTAIRAYA 奈良橋店で実施した第3回オープンハウスでは、会場となった商業施設を利用する高齢者の参加が多かった。

○委員

全体の意見のうち子どもからの意見はどの程度あったのか。

○事務局

子どもから意見を得た人数は、第1回オープンハウスが27件、第2回オープンハウスが14件であった。第3回オープンハウスでは、子どもからの意見はなかった。

○委員

オープンハウスの来場者数と意見数は異なるのか。

○事務局

オープンハウスの来場者は複数意見を寄せる方も多くいたため、来場者数と意見数は異なる。

○委員

オープンハウスの中で得られた意見には類似する内容が多かったか。

また、具体的にはどのような意見が多かったか。

○事務局

東大和市パーク・グラデーションプラン（以下「本プラン」という。）では、市域を3つのエリアに分けていることから、来場者の身近な個別の公園等に対する意見が多かった。第3回オープンハウスでは、会場近くの市立狭山緑地に関する意見も多かった。

また、子どもからは遊具に関する意見が多く寄せられた。

○座長

オープンハウスの来場者の意見や対話を通じて感じた市民ニーズの傾向について伺いたい。

○事務局

市全体の公園等に対する意見があった一方、普段から利用する身近な公園等に関する意見もあった。

また、市民ヒアリングやオープンハウス等で市民の意見を聴取しながら、本プランを検討していることについて、好意的に受け止められている印象を受けた。

さらに、公園タイプとしてオープンスペースを設けることに対する反対意見は少なく、あえて遊具等を設置せず、自由に利用できる空間の公園を望む意見が比較的多かった。

○委員

オープンスペースに対して肯定的な意見が多い理由を具体的に知りたい。災害時に利用できることや、自由に利用できる空間の公園等を設けることで、公園等の再整備にメリハリをつけるべきであることなどを理由とする意見はあったか。

○事務局

特に高齢者から、オープンスペースを望む意見が多くあった。高齢者では遊具を利用しないことや、子育てを終えていることから遊具の必要性を感じておらず、休憩や滞在ができる空間を求めているためである。

また、子どもが自由に走り回れる空間が減っているため、オープンスペースを設けてほしいという意見もあった。

○副座長

個別に意見がある公園等に対して、意見がない公園等もある。後者の公園等については、市民の興味・関心や改善要望が比較的低く、オープンスペースとして位置付けでもよいのではないか。

○事務局

利用者の多い「にぎわい公園」、「わくわく公園」、「まいにち公園」と位置付けられた公園については、多くの意見や改善要望が寄せられた一方、「オープンスペース」として位置付けられた公園については、個別の意見が少なかった。

このことから、今回設定した公園タイプは、市民の利用実態や関心度と概ね整合しており、市民が求める各公園の再整備に大きな乖離は見受けられなかった。

○委員

オープンスペースについて、どの程度の面積の公園を想定しているか。

○事務局

現在、オープンスペースに設定している公園等は500平方メートル以下のものが多い。

(3) 「東大和市パーク・グラデーションプラン

～多彩な公園の実現に向けた再整備・管理運営～」について

○副座長

本プランの「Ⅲ. パーク・グラデーションプランの実現に向けて」と「Ⅳ. 計画の進め方」は、内容が重複している。本プランとは何かが理解されるよう、「Ⅲ. パーク・

グラデーションプランの実現に向けて」は、「パーク・グラデーションプランの狙いや目標」等の表現とした方が良いのではないか。「Ⅱ.公園等の現状と課題」を踏まえて、本プランの必要性が伝わる目次とすることが望ましい。

○事務局

本プランでは、公園等ごとの将来的な再整備や管理運営の具体的な進め方について、その考え方を示すことが重要であると考えている。

そのため、公園等の特性や役割に応じて分類した公園タイプごとに再整備の進め方の手順を定めていきたいと考えている。

まず、にぎわい公園やわくわく公園については、再整備を始める検討段階からワークショップ等を実施し、地域住民や利用者と継続的な対話を重ねながら進めることが重要であると考えている。

一方で、全ての公園等について同様の手法を適用することは、時間や費用の面から現実的ではない。そのため、特に身近なまいにち公園とオープンスペースについては、自治会や公園周辺の住民に対し、再整備や工事を実施する際に必要最低限の周知を行いながら進めることを想定している。

公園タイプ別の進め方は現時点では案として整理している段階である。委員の皆様から改善点や懸念事項について意見をいただき、本プランの内容に反映していきたいと考えている。

○副座長

にぎわい公園及びわくわく公園に設定している26か所の公園等の全てでワークショップを実施すると、再整備に係る行政の費用負担が大きくなるのではないかと考えるが、財政部局も含めて調整は行っているのか。

○事務局

公共施設の再配置を検討する中で、費用面についても、都市基盤課だけでなく、関係部局と連携して検討を進める考えである。また、今後、個別の公園等の事業費を踏まえ、必要となる財源の概算額を算出する予定である。

○委員

本プランの内容について、市民にとっては自宅近くの公園等が今後どのように変わるのかという点に高い関心を持つと考えられる。そのため、プラン全体の考え方だけでなく、公園等ごとの将来像や整備方針を分かりやすく示し、市民の理解が得られるような工夫をしているのか。

○事務局

これまでに30回以上の市民ヒアリングを実施したほか、イベント時の公園投票や小学生を対象としたワークショップにより、意見を聴取してきた。これらの意見を基にして、本プランを検討している。その成果は、オープンハウスで本プランに関しての反対意見が少なかったことから、市民の理解が得られていると考えている。

(4) モデル公園整備に伴うワークショップの実施について

○委員

ワークショップでは、近隣の保育園や幼稚園から意見は得られたのか。

○事務局

今回のワークショップではなく、本プラン検討当初から近隣の保育園や幼稚園へのヒアリングを実施してきている。

○委員

将来的にモデル公園の管理運営への関与が期待される団体にも、ワークショップに参加してもらおうとよいのではないかと。

○事務局

ワークショップには東大和第一光ヶ丘自治会に参加していただいております、同自治会は、第一光ヶ丘公園内の花壇の維持管理等を行っている。

○委員

第一光ヶ丘公園のリニューアルに当たり、ゾーニングを現在の利用方法から変更するのか。

○事務局

現状、公園内の同じエリアで複数の利用方法が混在しているゾーニングとなっているため、樹木やフェンス等を設け、用途に応じてエリアを分割することが想定される。現在は、小学生の利用が多い時間帯に乳幼児連れの親子が利用しづらい等の課題があるため、その解決を図りたい。

○委員

駐輪場について、どのように対応をする想定か。

○事務局

ワークショップ実施時に駐輪場の整備を求める意見があった。現在、園内に自転車が無秩序に駐輪されているため、駐輪場所を明確にする必要があると考えている。

(5) 今後のスケジュールについて

○委員

こども広場のうち、借地である場所について、今後どのように扱う想定であるか。

○事務局

公共施設の再配置と考え方を併せて、借地の返還等を視野に入れ、集約・再編を検討する必要があると考えている。

○事務局

第7回検討会は、令和8年10月23日（金）に開催する予定である。第7回検討会では、「東大和市パーク・グラデーションプラン」の案を議題とする予定である。

以 上